

## 高知城花回廊(2012年4月8日)

右城 猛

高知城・高知公園では4月6日から「高知城花回廊」が始まっており、3日目の今日が最終日。

昨年は東日本大震災のために中止になっている。夕方、家内と電車に乗って出かけた。

今年のテーマは「和で綴る花と灯り」。高知城花回廊を見物するのは2010年に続いて2度目。



ライトアップされた小原流の生け花



高知城の石段の両側には行燈が並べられていた。



艸美流(そうびりゅう)の生け花



高知城にこれほど多くの人を見るのは初めて。見物客で人が溢れていた。高知城花回廊の人気の高さを改めて知らされた。



池坊高知橘支部の作品。



二の丸に上がる石段。両側に行燈が並べられている。時間がまだ早いので人出はまだ少ない。





本丸から眺めた天守閣



二の丸に飾られている草月流の生け花



正殿の前の庭園



二の丸から本丸に入る詰門に陳列された生け花



本丸の正殿の舞台では、ライトアップされて日本庭園をバックに羽織袴姿の長野遊山と濱田遊雲のお二人による尺八の演奏があり、美しい音色に観客が聞き入った。長野遊山とは、高知土木事務所の土木次長をされている長野哲司氏。

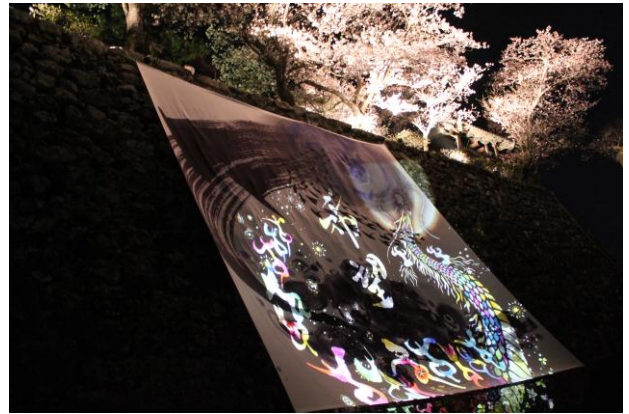


二の丸から本丸に入る詰門に陳列された生け花





天守閣から見下ろした本丸の桜

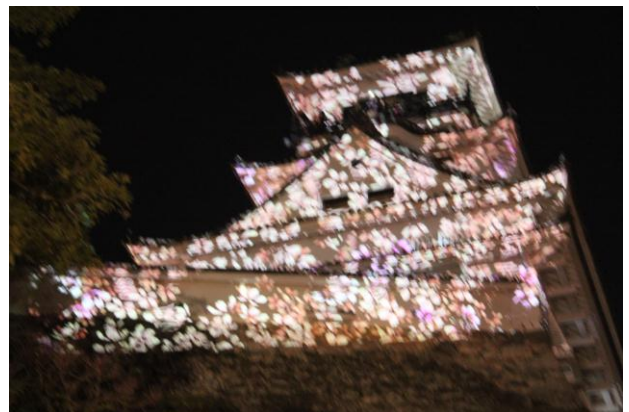


今回の花回廊の特徴は、デジタル映像を投射して幻想的な世界を作り出す「光の切り絵」。

本丸の石垣にスクリーンを張って映し出された映像。



梅の段に作られた「春灯の庭園」



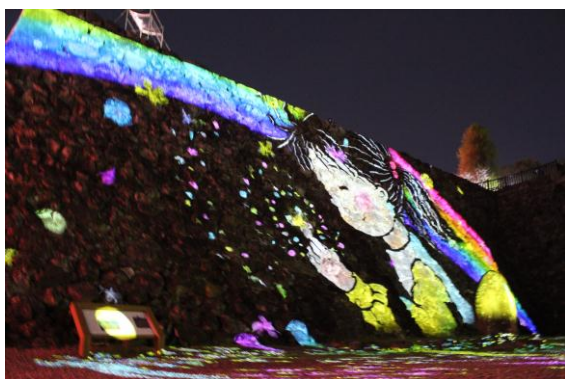
天守閣の壁面に映し出された桜の花びらの「光の切り絵」。



ライトアップされて美しい和傘



杉の段から眺めた天守閣



三の丸の石垣に映し出された「光の切り絵」。次々に切り絵がスライドショーで写り出された。杉の段は大勢の見物客で溢れた。



追手門の花の舞台。8時から高知県日本舞踊協会による日本舞踊が始まった。



20時過ぎに追手門から外に出る。追手門に入る道の両側には、ぼんぼりが点灯し心が和む。

この後、「ひろめ市場」に行く。案の定混み合っていて座る席が見つからない。帯屋町1丁目の水田ビル地下1階にある「花ころも」に久しぶりに行ったが、ここは生憎の定休日。

仕方なく、近くの小さな居酒屋に飛び込む。初めての店であったが、伊勢エビやモンパエビというメニューも表示されていたので、それなりの料理を期待して入る。

生ビールと料理を注文してしばらくすると、4~5名の若者がコンパをしているらしく、甲高い叫び声が聞こえてきた。狭い店内に響いてうるさくてしょうがない。私達よりも先に来ていた客が、二組相次いで店から出ていった。

私達も注文した料理を食べ終わると直ぐに店から飛び出した。こんな店には二度と来たくないと思った。

口直しと耳直しをしたかったので、廿代町にある「土佐市場寿し」に入る。初めての店であったが、新鮮な魚料理を落ち着いて食べられそうな雰囲気が入った。

金目鯛の兜煮やメヒカリを肴にして日本酒の熱燗を飲んだが、予想通り満足できた。

(2012年4月10日記)